

学校自慢

未来へはばたけ、ひばりっ子！

木更津市立八幡台小学校長 いなむら 稲村 よしのり 由則



1 はじめに

本校は昭和56年に開校し、昨年創立40周年を迎えた。児童数849名、学級数32学級の市内でも有数の大規模校である。

本校児童は、「ひばりっ子」と称される。これは、開校当時の職員が緑豊かな学び舎の周りを飛び交うひばりの姿に、子供たちの限らない未来を願ったことによる。また校歌の制定には、市内出身の俳優、中尾彬氏が関わっている。

2 学校自慢ベスト3！

(1)特別支援教育の充実

→知的3クラス、自閉・情緒2クラス
難聴1クラスで35名の児童に対応

(2)大規模校ならではの行事

→運動会、音楽会など大勢の児童による迫力ある教育活動を展開

(3)伝統ある「八幡台ふるさと音頭」

→開校当時の職員による創作ダンス、
衣装も現在のものは3代目

※番外編：給食がおいしい！

→創意工夫溢れる自校給食、栄養士、調理員さん等の努力の賜物

本校の良さを考えたとき真っ先に思い浮かぶのは、「特別支援教育の充実」である。力のある指導者を配し、体育や生活単元学習などでは学級の垣根を越えて全体で取り組む。交流学級との連携も盛んで、児童の資質や能力に応じたカリキュラム編成を行っている。

特筆すべき取組は、「八幡台ふるさと音頭」である。これは、開校当時の職員が中心となって八幡台の春夏秋冬を歌ったものである。



ひばり音楽会での発表

歌に合わせ振り付けも作られ、敬老会や夏祭りなどで代々披露されている。

3 教職員の取組

どの学年も複数の学級で構成されているという本校の利点を生かし、校内研究のテーマを「新学習指導要領に基づく授業改善」とした。週1回、必ず学年会を実施し、次週の学習活動を確認している。こうした取組により、若年層の教職員に対して指導技術の伝承がなされるとともに、ベテラン層の教職員が自身の指導法を見つめ直す良い機会となっている。また、どの学級においても一定の質の学習内容が保障されることにつながっている。

授業改善とともにICT教育にも力を入れている。こちらも学校全体で取り組んでおり、日ごとにその成果が表れている。特に、低学年の習熟は目覚ましく、来校者からは驚きとともに褒めの言葉をいただいている。

4 おわりに

コロナ禍でこの2年間、本校のポテンシャルが十分に発揮できなかったのは残念である。しかし、来年度以降、「ひばりっ子」の活躍があちこちで見られることを信じている。